会　議　録（ 要旨 ）

会議の名称	第２回上牧町第 10 期介護保険事業計画高齢者保健福祉計画策定委員会
開 催 日 時	令和８年 10 月１日（木曜日）　午後 2 時 00 分から午後 3 時 30 分
開 催 場 所	保健福祉センター（２０００年会館）保健指導室
出　席　者	【委員１３名】 植村委員、中西委員、氏原委員、中村委員、竹島委員、小川委員、 向井委員、暁委員、森井委員、児島委員、山田委員、赤松委員、森安委員 【事務局７名】 健康福祉部：俵本理事 生き活き対策課：杉分課長、牧浦課長補佐、中川係長、萩野係長、善家、吉田 【傍聴者０名】
欠席者	【委員２名】 岡本委員、西川委員
会議資料	(1) 第10期上牧町介護保険事業計画高齢者保健福祉計画認知症施策推進計画策定に向けた調査報告書 (2) 第10期上牧町介護保険事業計画高齢者保健福祉計画認知症施策推進計画骨子案
議事内容	(1) 高齢者保健福祉計画・認知症施策推進計画策定に向けた調査報告書について (2) 第10期介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画・認知症施策推進計画素案の検討（骨子案）について (3) その他
議事要旨	１．開会 －事務局より開会－ ２．議事 議第１号　高齢者保健福祉計画・認知症施策推進計画策定に向けた調査報告書について －事務局より説明－ 委員意見 （中村委員） ・回収状況が前回より２ポイントアップしているが、何か方法を変えたのか。 （事務局回答） ・ニーズ調査に関して、前回と変えたところは、名前の記載等をなくした点である。前回はフィードバックするために調査票を作っていたが、今回は完全無記名の状態で実施した。あとは、社会情勢的に介護に興味を持っている方が増えたではないかと、肌感覚で感じている。 （中村委員）

	・地域によって回収率に差はあるのか。その地域が介護について認知しているのか、もしくは身近に感じているのか。もしくは旧村では介護を家族がやるのが当たり前みたいな意識があって、別に介護保険はいらないというような意識がある地域なのかもしれない。 （事務局回答） ・それぞれの各地区の母数を出していないので、各地区の回収率は今はわからないが、確かにパーセンテージを出したら、各地区での介護への関心というのが、すごくわかると思うので、出せるように調整していきたい。 （植村委員長） ・可能であれば、年齢別の回答についても、同じくパーセンテージを出していただきたい。 （向井委員） ・地区で比率が出ているが、これは回答者4,232人のうちの何パーセントということは、例えばその地区での世帯数が少なかったら、比率は上がることはないので、地区の中で何人が返してくれたのかという比率でもって、地区によって興味がある人とか、そういうのが出てくると思うので、そっちの比率の方が良いと思う。 （氏原委員） ・86ページの問６について、上牧町では主な介護者が行っている介護で、掃除・洗濯・買い物などの家事の割合が高く、どうしても掃除・洗濯というのは、人間的に邪魔くさいと思ってしまう部分があると思うのだが、この率を減らす方法や案について考えはあるか。 （事務局回答） ・施策を打ち出す時になかなか難しいと思うが、とりあえず社会福祉協議会には、助け合いというところは依頼している。食事の面でも配食を行っているので、上手く利用していただきたい。 （暁委員） ・85ページについて、上牧町だけ20歳未満の介護者がいるが、ヤングケアラーの問題にも関わってくるのではないか。 ・34ページの問５地域での活動について、「年代が上がるにつれて参加していない割合が高くなっている」となっているが、年代が上がるにつれて、無回答が増えているから、実質数字が低くなっているのではないか。そのあたりの整合性もはっきりとさせたほうがいいのでないかと思う。 （植村委員長） ・その辺は、この調査だけでは読み取れない部分なので、今後皆さんと検証する中で、そういうことも踏まえながら進めていく。 （向井委員）

	・45ページで、介護予防のための通いの場に参加していない理由のところに、「参加するきっかけがない」とか、「興味がある活動がない」ということが出ているが、きっかけづくりが大事である。例えばいろんな町で行われるイベントがある時に、出て行くことによって、その場で何かやっていたら、何かのきっかけで興味が湧くものが出てくるはずなので、そういうことを考えれば、次はそこに行かせるきっかけを作ると。要するに仲間と連れて行くことをすることによって、出てくると思う。同じ時代にいるクラブでも、廃部するクラブもあれば、増えるというところもあるので、そういうきっかけをうまく作る、そういう場をもっと設けて、横のつながりも持って、やっていかないとなかなか難しいと感じている。 （事務局回答） ・参加される方は、１箇所ではなく、ボランティアや、自治会の活動、通いの場等、いろいろ行ってくださって、顔なじみができている方がほとんどだが、本当に参加してほしい人に、情報が届くにはどうしたらいいのかというのが課題である。そういう人を引っ張り出せる方法が一番難しくて、最初のきっかけが何かできないかというのは感じている。 （中村委員） ・63ページで認知症の相談窓口の認知度がかなり低いが、一方で64ページの認知症になるということは、我が事として分かっている。 しかし、その時の相談窓口を知らないというところに、すごくギャップを感じるが、この辺り事務局としては、どんな受け止め方をさしているのか。 （事務局回答） ・このアンケート上は、認知度は低いが、包括支援センターの窓口には、ほぼ毎日相談がある。また、去年度からは、ラスパのゲームセンターの前で、認知症啓発も行っている。オレンジランプという映画も上映し、包括を中心に啓発を行い、徐々に広がっていると、個人的には考えている。 包括支援センターでは、要介護認定の有無に関わらず、情報を得た場合は、高齢者訪問等を行っている。今年度に関しては、作成したブルゾン等を着用し、訪問させていただいて、そういうところでも認知度が広がっていけばいいと考えている。 （中西委員） ・過去のアンケートと比べて認知度は上がってきているのですか。 （事務局回答） ・前回の調査から３％上がっている。 （中西委員）

	・パーセントなので、人の数が増えたのかどうかはわからないが、窓口に来る人が増えているという肌感覚は、ある意味大事だと思うので、こういう数字も視野に入れながら、認知度が上がっているのかどうかということも検討していただきたい。 議第２号　第10期介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画・認知症施策推進計画素案の検討（骨子案）について －事務局より説明－ 委員意見 （中村委員） ・今回の法改正を見ると、身寄りのない高齢者に対する第二種社会福祉事業等、要は地域における人材の確保の関係で、社会福祉協議会の名前が出てきて、これから社協とのつながりが非常に強くなってくると思われるが、その辺はどのように考えているのか。 （植村委員長） ・社会福祉協議会としては、奈良県社会福祉協議会が地域福祉権利擁護事業、福祉サービス利用援助事業をやっている関係で、恐らくフレームとしては、県から奈良県社会福祉協議会が委託なり指名なりをされて、全県としてやっていく中で、どう展開していくかについて、５つの市町の社協と県社協とで協議をしているところである。全部行うのか、どの部分だけを行うのか、切り分けることもできるし、市町村でどれだけしていくかになってくると思う。死後事務だけの話でいうと、社会福祉協議会では、奈良市と宇陀市の方が既に独自に始めるということで、今年度準備に入って、年度内に始める。その結果を受けながら、社協としてどうしていくのか検討中なので、一概に全部できるとは言えないが、前向きに考えている。 　ただ、そのフレームとして、基本的には利用料で回す事業の建付けで、使いたい人からお金をいただいてやっていくという建付けになっているので、それが本当にできるのか難しいところだと、社協サイドとしては認識している。 （中村委員） ・要は介護保険の改正なり、この概算要求の中身をみると、やりきれるわけがない。上牧町で、例えば任意事業の中で重点に入れてやっていくというようなことを考えていかないと、マンパワー的に今の体制では絶対回せない。人数も今の５倍ぐらいいても間に合わないと思うが、その中で上牧町としては、これとこれはやるというようなメリハリをつけないと、とてもできないと思うが、その辺はどう考えているか。 （事務局回答）

	・当町においては、脳トレや体操教室等の事業を重点的に行っていて、そういう事業に関しては委託している。今特に重点を置いているのは、高齢者訪問で、民生児童委員や自治会の方等から情報をいただいて、そこから高齢者訪問を行い、住民とのつながりを作っていくところに特に重点を置いている。今後も、地道に訪問をさせていただいて、つながりを作って問題解決をしていくというところに重点を置きたいと思っている。 （氏原委員） ・資料の９ページの人口の推移について、使用している推計値は、介護保険だけではなく、上牧町全体として同じ数字を使っているという理解でよいか。 （事務局回答） ・注釈にもあるが、上牧町の人口ビジョンというものを使用しており、上牧町で統一されている推計値を使用している。 （赤松委員） ・第１号議案のアンケート調査の中で、「在宅での訪問介護」と、「外出の支援」が充実していればというのがあったが、この２つというのは、介護保険の制度を見ると、訪問介護事業というのは点数が下がり、事業継続が難しい。そして恥ずかしながら、私どものこころ上牧も、実は介護タクシー事業を休止している状態である。社会福祉法人として、全体でカバーしつつ維持すべきであるが、実際やってみると、継続が難しいような収支状況であった。露骨にこういったアンケート調査で必要とされる部分が、今、提供者側が維持できない現状にあるというのは、全国的に見てもそうなので、委員の皆様からも、議会に声を出していただきながら、国に動いていただくというところで、私も微力ながらしていきたいと思っている 　あと、昔は社福や介護施設では、隣の法人施設が何をしているのかわからないような状況であったが、今は、香芝市、広陵町、葛城市等の社会福祉法人や特養と北葛地域福祉連携会議という会議体を作って、防災協定というのを結んでいる。そこで費用負担はどうするのか、職員を派遣するときはどうするのかというのを明確に決めた方が動きやすいということで、社協の皆様であったり、危機対策課の皆様と意見交換を行っている。先ほどの話のように他の事業に人を回すと、訪問が回りにくくなるというようなところも、我々のところには専門職もたくさんいるので、もっと積極的に関わらせていただいて、少しでも補完でき、行政のお力になれればと考えている。 （中西委員） ・10ページの世帯の推移について、人口そのものは減少傾向だが、世

	帯数が増えているというのは、１世帯で１人の人が増えているということか。 （事務局回答） ・その通りである。 （中西委員） ・12ページの要支援・要介護度別の認定者数の推移について。「令和17年から22年にかけては、要介護２～４が増加傾向にあるのに対し、要介護１以下と要介護５は減少すると予測されています」とあるが、どうやって予測しているのか。 （事務局回答） ・人口推計から、将来見通しはどうかというのを推計し、その推計値を厚生労働省が出している「見える化システム」というシステムを使って、そこに上牧町の推計人口と介護保険事業報告という情報を入れ、そのシステムで推計を算出している。 （中西委員） ・第９期計画と第10期計画では、どういうところが大きく変わっているのか、あるいは、ここを縮小したとか、ボリュームアップしたとか、説明が可能であれば、また次回の時には骨子ではなくて、中身の話があると思うので、その時にお願いしたい。 （向井委員） ・27ページの身寄りがない高齢者への対応の充実について、最近よく目に付くのは、つれ合いのどちらかが亡くなった瞬間に、今まで元気な人が中に入ってしまって、突然見かけなくなって、たまに見た時には会話がつながらない。そういう人が現実にいる。また、何かの会の役に当たって、今までずっと家に２人で居たのが、役当たったがために、いろんな方から突然電話かかってきたり、全然知らない人が関わってくるので、家の中が全部そちらに向かれてしまうとか、そういう雰囲気になってしまう人も現実にいる。通常のアンケートでは、そういうものが出てこないので、そういう人の対応をどうしたらいいのか、何かいい方法があれば、あとはそういう情報をいかに共有していくかが大事だと感じているので、対応をお願いしたい。 議第３号　その他 （氏原委員） ・米山自治会のでは毎週金曜に午後１時から健康マージャンをやっていて、来る人が増えている。楽しいことであれば、口伝えで広まって、出てくるので。そういったことが他でもあれば、取り入れていきたいと思うので、情報をお願いしたい。

	（事務局） ・計画の題名について、３つの計画が書いてあるので、長くなっているが、他の市町村の骨子案を見ると、省いてるところもある。どうしたらいいか、策定委員会の方で考えていただきたい、 （氏原委員） ・長くても何をやっているかというのが一目瞭然だから、これはこれで置いておいて、あとは、略称を決めた方がいいかもしれない。 （植村委員長） ・このままにしておいて、異議があれば、次回検討する。 以上